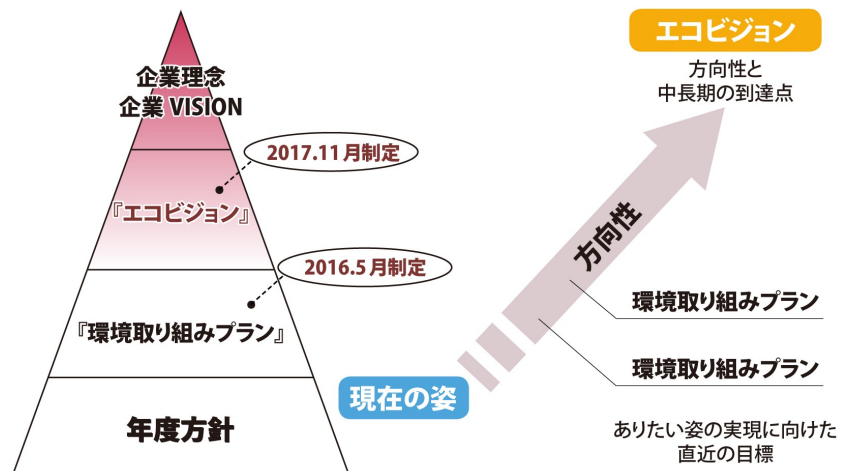


環境保全活動

企業活動のあらゆる領域で、環境負荷低減をめざして

デンソーテングループは、企業理念に「私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します」を掲げ、環境経営を積極的に推進しています。

2017年11月には、デンソーグループの一員として、ベクトルを合わせ一体感を持った活動を推進するため、新たに「デンソーテングループ エコビジョン」を制定しました。また、目標達成に向けた具体的な行動計画として「環境取り組みプラン」を制定しています。



TOPICS

第 8 期 環境取り組みプランの見直し

2017年11月に制定した「デンソーテングループ エコビジョン」に基づき、デンソーグループの環境行動計画および当社を取り巻く環境変化を踏まえ、2018年7月、環境取り組みプランを見直しました。

活動期間についても、デンソーグループに合わせて、従来の3か年から5か年(2016～2020年度)に変更したほか、基準年度を2011年度から活動期間直前の2015年度に変更することで、第7期環境取り組みプランの最終年度の実績に対して、今期内にどれだけ改善していくかを把握しやすくしています。

デンソーテングループ エコビジョン**I. コミットメント（～2050年）**

デンソーテングループは、環境と経済の両立が経営の重要課題と認識し、全ての企業行動を通じて、環境・エネルギー問題の解決と自然との共生を図り、人と車と環境のよりよい関係づくりを推進します。また社会が直面する重要環境課題に果敢に挑戦し持続可能な地域・社会に向けた、新たな環境価値を創造し、地球を守り、次世代に明るい未来を届けます。

コミット 2050: 温室効果ガスの人為的な排出と吸収のバランスを達成する(ゼロエミッション)

II. 環境方針（～2025年）

グローバルに構築した環境マネジメントシステムの枠組みを通じて、デンソーグループのエコビジョンを環境取り組みプランに反映し推進します。

ターゲット 3	基本方針	コミット 2025
エネルギー1/2	地球温暖化やエネルギー・資源問題を解決する技術で、地球環境の持続的な維持に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> 車のCO₂半減に貢献 工場のエネルギーハーフを推進
クリーン×2	全てのステークホルダーの皆様安心して頂けるよう、順法はもとより、継続的改善を進め社会と共に成長する企業であり続けます。	<ul style="list-style-type: none"> 有害化学物質の影響や排出物・廃棄物・水使用量の半減を推進 自動車の排出ガス低減技術の開発
グリーン×2	豊かな自然を次世代に引き継ぐため、自然との共生を目指した企業活動を通して、自然の叡知・恩恵を分かち合う社会を実現します。	<ul style="list-style-type: none"> 環境に貢献する事業の推進・製品開発 緑化の推進

カテゴリ	具体的な取り組み内容
エコプロダクツ (事業・製品領域)	<ul style="list-style-type: none"> 車の燃費向上に寄与する環境貢献事業・技術開発ならびに製品環境配慮設計を推進します。 サプライチェーンを通じて製品の含有化学物質管理を徹底するとともに、グローバルな規制動向を早期に把握し規制物質の自主的な切替対応を推進します。
エコファクトリ (工場・物流領域)	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会実現に向けたエネルギー効率の向上、地球温暖化対策を推進します。 循環型社会への貢献に向け、3R(Reduce/Reuse/Recycle)徹底により、排出物削減、リサイクル率の向上に努めます。 各国各地域の水環境事情を考慮した水使用量削減活動を推進します。 有害物質の環境リスク低減と使用削減対策を推進します。 生産の上下流におけるグリーン物流を推進します。
エコフレンドリー (人とくらし)	<ul style="list-style-type: none"> 社員一人ひとりが「地球環境の維持」にこだわり、使命をもって持続可能な社会を目指した行動を自ら実践していけるよう、環境教育を充実します。 家庭でも節電やエコドライブにつとめエネルギー使用を削減します。 生物多様性保全の活動を含めた地域・社会への環境貢献活動を推進します。
エコマネジメント (しくみ・情報発信)	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、マネジメント手法のブラッシュアップに努めるとともに、環境経営の基盤強化ならびに環境価値創造に努めます。 環境リスクをミニマム化し、あらゆるステークホルダーへの積極的な情報発信を行います。

第8期環境取り組みプラン

環境取り組みプラン**2018年度の目標と実績**

2018年7月、環境取り組みプランを見直しました。活動期間を従来の3か年から5か年(2016~2020年度)に、また基準年度は従来の2011年度から活動期間直前の2015年度へ変更した上で、取り組み目標についても見直しました。

2018年度は、すべての項目で目標を達成しました。

分野	取 り 組 み 目 標	2018年度 目標	2018年度 実績	評価
*1 環境貢献技術・製品: 製品エネルギー消費 および温室効果ガス 排出量削減に貢献で きる技術・製品	全ての新規開発製品において、2020年度末までに2015年度比で平均9%軽量化する	2015年度比 -7.3%	2015年度比 -10.8%	○
	環境貢献技術*1の取り組みを全技術本部に拡大し、2020年度末までに各事業より2件以上提案する	各事業部 1件(計3件)	各事業部 1件(計3件)	○
	環境貢献製品*1の売上を2020年度に2015年度比で50%アップする	2015年度比 5%アップ	2015年度比 19%アップ	○
	グローバル規模の環境負荷物質規制への積極的な切り替え推進を行う	鉛:関係部門展開 フタル酸:顧客調 整開始	鉛:関係部門展開 フタル酸:顧客調 整開始	○
*2 再生可能エネルギー: 太陽光、風力、水力な ど自然界に常に存在す るエネルギーであり、 発電時や熱利用時に 地球温暖化の原因とな るCO ₂ をほとんど排出 しない、クリーンなエネ ルギー	温室効果ガス排出量(生産高当り)を2020年度末までに2015年度比で9%削減する	2015年度比 -2%	2015年度比 -2.1%	○
	再生可能エネルギー*2の利用を拡大する	設置シミュレー ション完了	設置シミュレー ション完了	○
	廃棄物排出量(生産高当り)を2020年度末までに2015年度比で6%削減する	2015年度比 +4%	2015年度比 -5.1%	○
	再資源化率を2020年度末までに98%以上に にする	再資源化率 97%	再資源化率 97%	○
	水資源使用量(生産高当り)を2020年度末までに2015年度比で16%削減する	2015年度比 -14%	2015年度比 -15.1%	○
	輸送における売上高当りの温室効果ガス排出量を2020年度末までに2015年度比で10%以上削減する	2015年度比 -8.7%	2015年度比 -8.8%	○
エコマネジ メント	環境リスク低減活動を通じたコンプライアンスの徹底 環境法規違反・異常件数 0件	法規違反・異 常件数 0件	法規違反・異 常件数 0件	○

グリーンサイト（生産）

デンソーグループは、環境配慮型の工場・オフィスを実現するため、すべての事業所で本業に根ざした取り組みを推進しています。

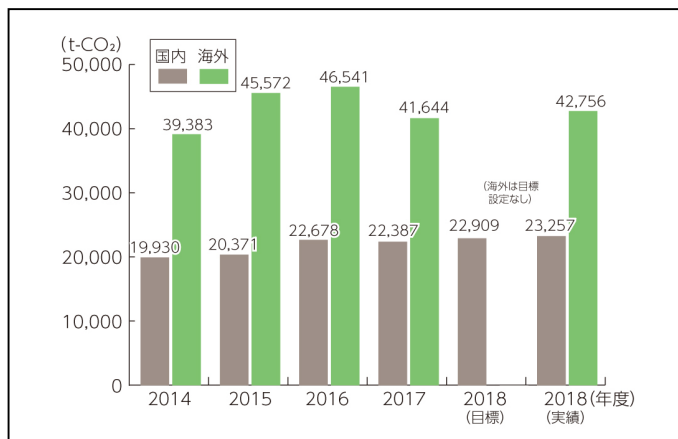
地球温暖化対策

地球温暖化の原因となる CO₂ 排出量を削減するため、省エネ設備の導入やオフィスにおける省エネ活動のほか、生産の効率化や業務の効率化に取り組んでいます。

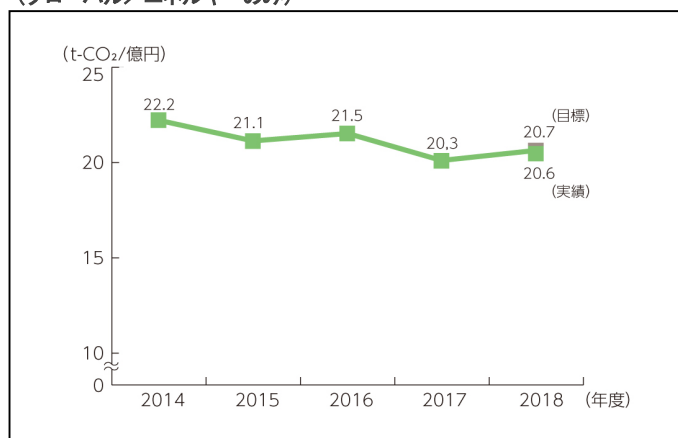
2018 年度の活動結果

グローバルでの CO₂ 排出量原単位は、2015 年度比-2.1% (20.6 t-CO₂/億円) となり、「2015 年度比で 2% 削減する」という目標を達成しました。

CO₂ 排出量の推移(エネルギーのみ)



生産高当りの CO₂ 排出量原単位の推移
(グローバル/エネルギーのみ)



※第 8 期環境取り組みプランの見直しに伴い、原単位に用いる生産高について、製品の価格変動影響を回避するため生産高補正を実施しました。これに合わせ、2015 年度の実績を修正しています。

活動事例 (TNMI)

デンソーテン ミンダ インド(TNMI)では、海外グループ会社で初となる、100kwの太陽光発電設備を2017年度に設置しました。これは法で定められた規模の4倍に当たります。

これにより、2018年度は約160t-CO₂の温暖化ガスを削減することができました。



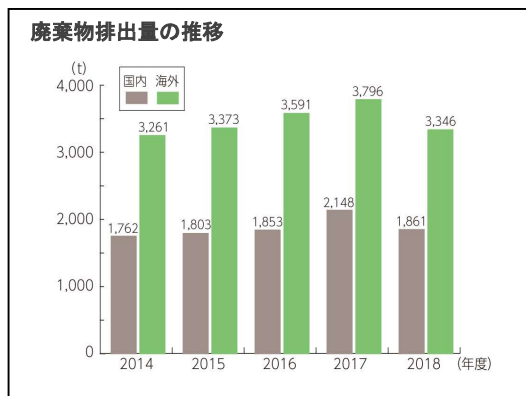
廃棄物減量化対策

資源循環型社会を見据え、3R(Reduce:発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再利用)を基本に、廃棄物の減量化、ゼロエミッション*に取り組んでいます。

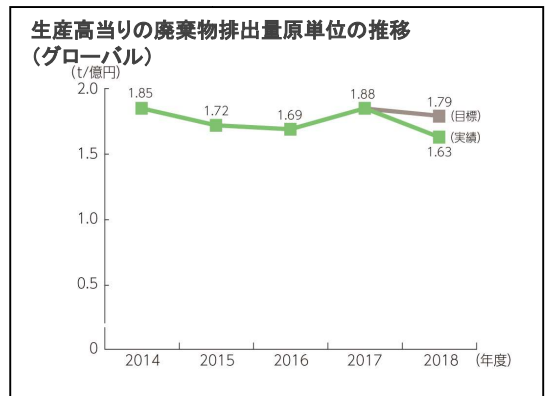
*デンソーテングループの「ゼロエミッション」の定義:
事業所から排出される廃棄物の発生抑制、再使用、再利用の3Rにより、単純焼却や埋め立て処分など有効利用されない廃棄物をゼロにする

2018年度の活動結果

グローバルでの廃棄物排出量原単位は、2015年度比 -5.1%(1.63t/億円)となり、「2015年度比4%の増加に抑制する」という目標を達成しました。



※第8期環境取り組みプランの見直しに伴い、有価物も含めた総発生量管理に変更しました。これに合わせ、2017年度以前の実績を修正しています。



※第8期環境取り組みプランの見直しに伴い、原単位に用いる生産高について、製品の価格変動影響を回避するため生産高補正を実施しました。これに合わせ、2017年度以前の実績を修正しています。

活動事例 (TNTH)

デンソーテン タイランド(TNTH)では、従来、局所排気システムに使用するカーボンフィルターの交換時には、使用済みのフィルターごと廃棄していました。これをフィルター内の活性炭のみを交換し、フレームを再利用することにより、廃棄量を削減しました。



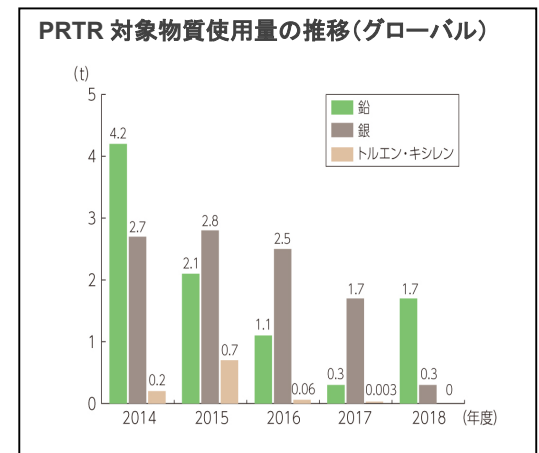
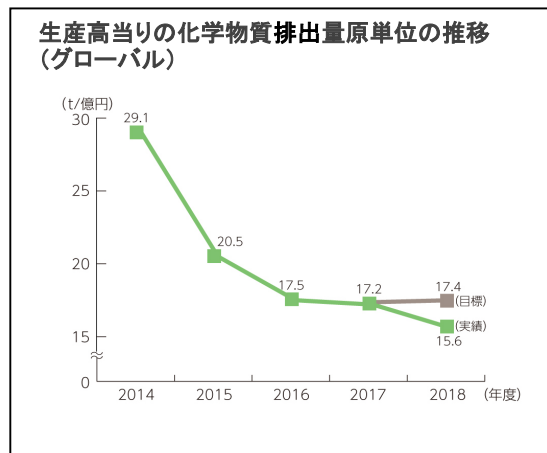
使用済の活性炭。活性炭だけを交換することで廃棄量を削減

有害物質削減対策

デンソーテングループでは、国内・海外の拠点で使用するすべての化学製品について、化学物質アセスメントを実施し、環境リスクの高い化学製品を特定して、その使用を低減する活動を行っています。

2018年度の活動結果

グローバルでの化学物質（PRTR, VOC）使用量原単位は、2015年度比-23.8%（15.6kg/億円）となり、「2015年度比で15%削減する」という目標を達成しました。

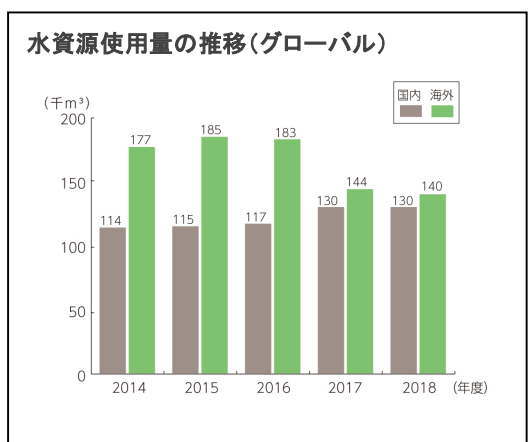
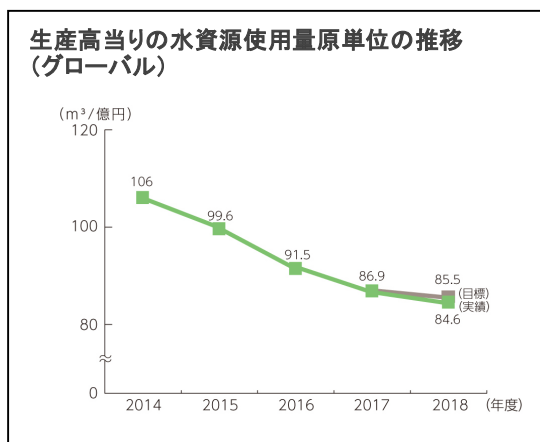


水資源使用量削減対策

デンソーテは、製造工程に水を使用していませんが、水は限りある資源であるとの認識のもと、工場・事業所で使用する生活用水（手洗い・トイレ・社員食堂などで使用する水）の削減に努めています。

2018年度の活動結果

グローバルでの水資源使用量は、2015年度比-15.1%（84.6m³/億円）となり、「2015年度比で14%削減する」という目標を達成しました。



グリーン調達ガイドライン

グリーン調達・グリーン物流

デンソーテックグループは、環境負荷の低い製品提供や地球温暖化防止のためには、自社のみならずサプライチェーン全体で活動する必要があると考え、グリーン調達・グリーン物流に取り組んでいます。

グリーン調達

環境負荷物質への対応、CO₂削減を目的とした施策をお取引先に行うため、「グリーン調達ガイドライン(第7版)」を国内外のお取引先に向け、Web上で開示しています。

また、JAMAシート改版などに対し改訂情報を発信し、最新版での運用に努めています。

物流改善による温暖化対策

当社は、地球温暖化防止に貢献するために、輸送におけるCO₂の排出量低減をめざして、輸送ルートや荷姿の改善および貨物の積載改善に取り組んでいます。

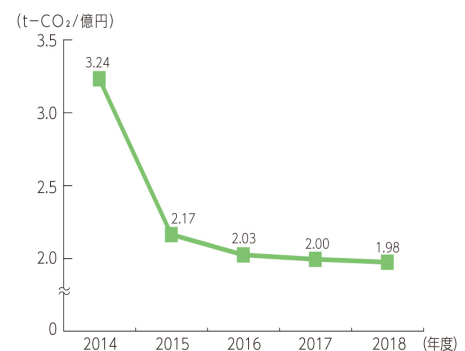
2018年度は、国内輸送において量変動に即応した定期便の減便、および車格変更を引き続き実施したことで、売上高当りのCO₂排出量を2015年度比で8.8%削減することができました。

今後もサプライチェーン全体を見据えた物流の合理化・効率化をさらに推進し、地球温暖化防止への貢献に努めます。

2018年度の主な取り組み

■国内定期便の減便化と車格変更の実施

国内定期便の、量変動に即応した最適な配車計画に引き続き取り組み、トラックサイズの変更を実施した結果、CO₂排出量および輸送コストを削減することができました。

物流段階における売上高当りのCO₂排出量の推移

グリーンプロダクト

部品調達から廃棄に至る、製品のライフサイクルのあらゆる段階での環境負荷低減を図り、環境に配慮した「スーパーグリーン製品」「グリーン製品」の開発を進めています。

スーパーグリーン製品の開発

デンソーテンでは製品の環境負荷低減を図るため、法規制のある物質や材料を使わないよう設計部門にて製品環境アセスメントを実施しています。

さらに、製品自体の省電力化、小型・軽量化などの評価を実施し、一定基準をクリアした製品を「グリーン製品」と定義し、グリーン製品の中でも、環境配慮のレベルが自社あるいは他社の製品と比較してトップグループレベルにあるものを「スーパーグリーン製品」とする社内基準を整備して、エコデザインを推進しています。

スーパーグリーン製品の定義は定期的に見直しを行っており、2016年度には、環境に配慮した製品開発をより推進するため、従来の「前モデルと比較しての省エネ、小型軽量化」といった製品そのものの環境負荷低減に加えて、たとえばクラウドを活用したナビゲーションや電気自動車のバッテリー制御システムといった「機能そのものが環境負荷低減につながる製品（環境貢献製品）」も社内審査基準に含めました。

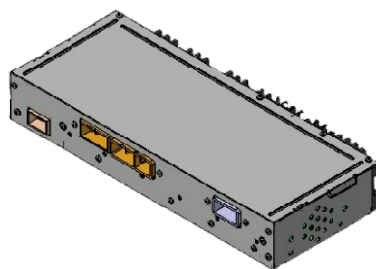
また、設計開発者の改善意欲向上を図るため、スーパーグリーン製品に認定された製品が当社「環境貢献賞」製品カテゴリに自動的にエントリーされるしくみを整備しています。

TOPICS

オーディオパワーアンプをスーパーグリーン製品に認定

オーディオパワーアンプについて、構造の簡素化、部品の小型化などにより、前モデル比 31%の小型化と 41%の軽量化を達成しました。

前モデル



体積: 1,704cm³

質量: 1,700g

今回モデル



体積: 1,179cm³

質量: 1,010g

31%削減

41%削減

Voice



■従業員の声

パワーアンプの放熱性能は、システムの要となる音質に直結する要素のひとつです。

放熱性能はヒートシンクによって決まりますが、その性能を確保するには、サイズ、重量が大きくなるということが課題でした。

今回、ヒートシンク形状の工夫、発熱が少ないICの採用などにより、目標を超えた音質向上と小型軽量化を達成しました。

今後はアンプだけでなく、システム全体で小型軽量化を進めていきたいと思っております。もちろん音質にもこだわっていきます！

CI事業本部 音響技術部 BP 入江 邦彦(写真左)

CI事業本部 音響技術部 第一技術課 日高 昇

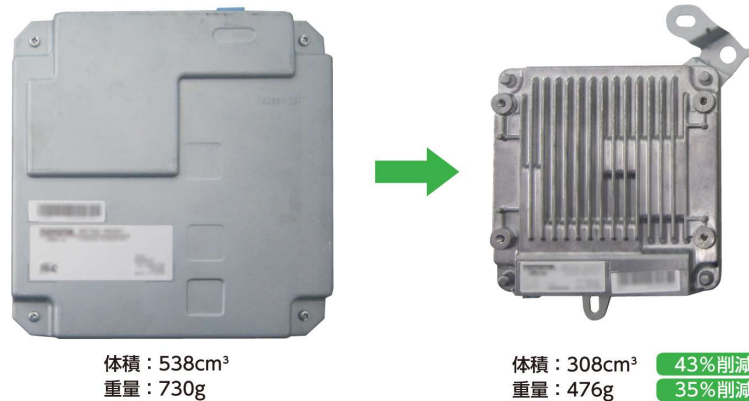
過去の認定品

■マルチアングルビジョン用 ECU (2017 年度認定)

自動車メーカー様向けマルチアングルビジョン用 ECU について、部品の小型化やシャーシの材料変更などにより、前モデル比 43%の小型化と 35%の軽量化を達成しました。



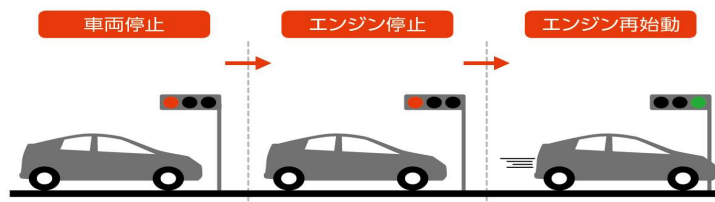
マルチアングルビジョン



環境貢献製品の例：ストップ&スタート制御 ECU

ドライバーの車両発進/停止操作を検出し、エンジンの停止/再始動を自動で制御することで、停車時のCO₂排出を抑えます。

CO₂低減効果：1台あたり約 110kg/年



ストップ&スタート制御ECU

環境負荷物質の低減

*1 ELV 指令 (End of Life Vehicles):
欧州連合 (EU) において発効された、使用済み自動車が発環境に与える負荷を低減するための指令

*2 REACH 規制
(Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals):
欧州連合 (EU) において発効された、化学物質が発環境や人体に与える負荷を低減するための規則

製品のライフサイクル全体で環境や人体に悪影響を及ぼさないようにするため、ELV 指令^{*1}、REACH 規制^{*2}など、各国、各地域で環境負荷物質への規制が強化されています。

それらの規制動向を踏まえ、製品に含まれる化学物質を適切に管理し、環境負荷物質の低減に努めています。

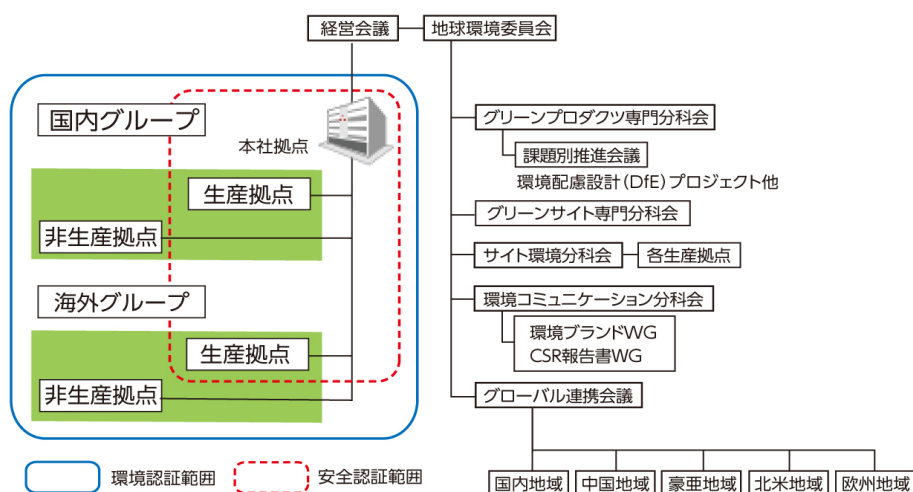
マネジメントシステム

地球規模での環境保全の必要性を深く認識した上で、組織・体制の強化と環境マネジメントシステムの継続的な改善に努め、グループ一体となって環境経営を推進していきます。

推進体制

デンソーテングループでは、全社の環境経営課題を審議する地球環境委員会のもと、テーマごとに5つの分科会を設け、活動を推進しています。また、ISO14001グローバル統合認証を取得し、従業員10名以上のグループ全拠点^{*1}で環境活動を推進しています。

*1 2019年6月末現在、デンソーテんと国内連結子会社3社、および海外連結子会社23社の計27社58拠点。



ISO14001/OHSAS18001 認証範囲

*2 自動車の車載・電子機器における日系企業において当社が他社公開情報に基づき調査した結果、ISO14001改定版においてグローバル統合認証を取得している企業としては、カーエレクトロニクス業界で初となります。

*3 グローバル統合認証: 本社機能を中心にグローバルで全社のガバナンスを行い、法律順守はもとより環境負荷削減などの取り組みをグローバルで行うしくみを構築し、第三者機関が認証する形態

ISO14001 認証取得状況

デンソーテングループでは、1997年に国内全生産拠点での認証取得を完了し、その後、2006年に海外全生産拠点でも認証取得を完了しており、2009年には日本でも有数の早さでグローバル統合認証を取得してきました。

そして、2017年2月19日、本社およびグループの国内・海外など25社58拠点を対象として、環境マネジメントシステムISO14001の改定規格であるISO14001:2015においてカーエレクトロニクス業界初^{*2}となるグローバル統合認証^{*3}を取得しました。

ITを活用した効率的な環境マネジメント

デンソーテングループは、環境経営をより効率的に行うため、データの収集・集計などに関わるオペレーションに、富士通エフ・アイ・ピー株式会社の環境経営情報システム「SLIMOFFICE」を採用しています。

各拠点からの環境データ収集だけでなく、本社などでの部門活動や、安全衛生分野のマネジメントシステムにおいても利用範囲を拡大し、マネジメントシステム全般の総合システムとして応用しています。

マネジメントシステム監査

デンソーテングループは、環境・安全衛生マネジメントシステムおよび環境パフォーマンスの継続的な改善を図るため、「内部監査」および「外部審査」を定期的実施しています。

内部監査では、ISO14001とOHSAS18001との複合認証の枠組みを活用、環境監査者へは安全衛生マネジメントシステムや安全衛生関連法規の教育を実施し、環境・安全の複合内部監査を行っています。

2011年度からは、法規・社内規定への適合有無だけでなく、総合的な改善が図られているかを5段階で評価する「有効性評価」のしくみを導入しました。

2013年度11月には、内部監査組織を再編し、監査機能の強化を図りました。また、外部審査員の養成も進めており、2019年7月現在6名が修了し、指導を通じて全体のレベルアップにつなげています。監査の際の不備事項の是正・改善はもちろん、経営層に対して企業経営の改善につながる提案を可能とする、強い監査組織をめざしています。

2018年度の監査結果

2018年度の内部監査では、昨年同様、環境については「規格要求事項(ISO14001:2015年度版)への対応や、規定通りの運用ができていないか」を確認するとともに、「法的要求事項などの改変に適切に対応しているか。順守評価に漏れはないか」、安全では、リスクアセスメントの抽出漏れの有無、危険度レベルの妥当性および対策内容の確認、5Sが徹底されているかに重点を置いて実施しました。

その結果、前年度に比べて環境と安全のトータルで重欠点・軽欠点・観察事項の件数が12件減少し、改善しました。内部監査における有効性評価は、昨年度より環境で0.23ポイント、安全で0.66ポイント向上し改善傾向にあります。

2018年度の外部審査では、国内拠点は2年連続で「不適合なし」でしたが、海外拠点の不適合は残存しており、さらなるしくみの定着に向けてルール順守を再徹底していきます。

マネジメントシステム監査結果		環境監査		安全監査	
		国内	海外	国内	海外
内部監査 (2018年8月 ～ 2019年3月)	重欠点(重大な指摘)	なし	なし	なし	なし
	軽欠点(軽微な指摘)	3件	0件	1件	1件
	観察事項	37件	17件	27件	8件
	向上評価	31件	21件	51件	5件
外部審査 (2018年 9月～11月)	不適合	なし	8件	なし	3件
	推奨改善事項	34件	—	38件	—
	向上評価	26件	—	21件	—

内部監査での 有効性評価 結果	評価項目	環境	安全	評価項目	環境	安全
	全般	3.73	3.75	効果	3.68	4.15
	しくみ	3.73	3.95	部門指導	3.77	3.89
	順法管理	3.87	3.95	平均値	3.76	3.94

<各評価項目の着眼点>

全般: 全体として昨年より良くなっているか

しくみ: しくみのスパイラルアップが図られているか

順法管理: 順法のしくみが整備され有効に機能しているか

効果: パフォーマンスの改善につながっているか

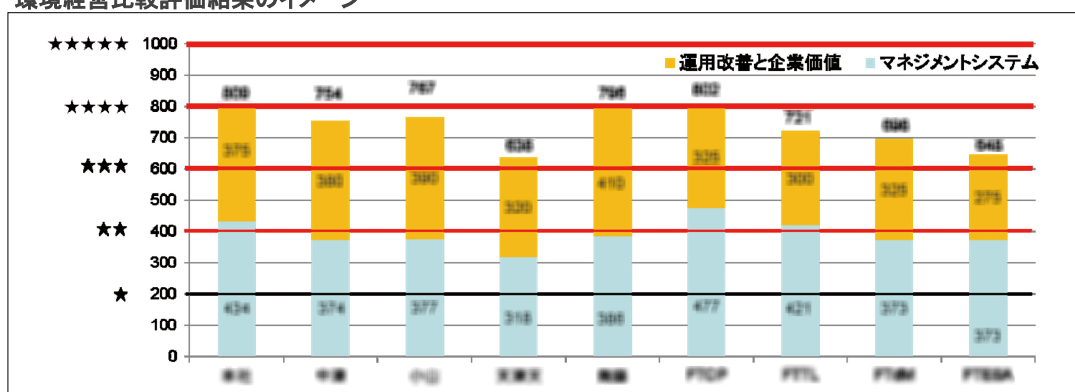
部門指導: 事務局としての部門支援・展開が機能しているか

環境経営比較評価

2014年度より、拠点間比較ならびに改善への取り組みを活性化させることを目的に、拠点ごとの取り組みレベルを定量的に評価できるしくみを整備し、「環境経営比較評価」として導入しました。

評価項目は「マネジメントシステムの充実度合い」「環境パフォーマンスの改善度合い」からそれぞれ500点ずつ、計1,000点満点となるように設定しています。

環境経営比較評価結果のイメージ



評価ランク	ランク内容
★	非生産拠点としてCSR報告書開示に必要な最低限の活動をしている
★★	ISO14001基礎レベルの活動ができ、認証が維持できる
★★★	グループ統合に参画し、グループ目標の反映やグループへの定期報告ができています
★★★★	グループ認証維持以上に拠点のできる範囲でスパイラルアップが図られている
★★★★★	先進的な環境技術を導入し、拠点でできるエコ活動を積極的に推進しグループの名誉に貢献している

環境教育

従業員一人一人の環境意識を高め、全員参加による環境活動を継続して行うため、「階層別教育」「一般教育」「特別教育」などの環境教育を実施しています。

環境保全推進員および環境管理監査者の養成教育修了後には理解度テストを実施し、力量レベルの維持を図っているほか、海外拠点においても、グループ統ールールに関する教材を展開するなど、環境管理に直接携わる従業員や新入社員などに対し、機会をとらえて環境教育を実施しています。

さらに、当社はより拡大・複雑化する製品の環境法規制に確実に対応するため、環境マネジメントシステムの「有意作業教育」を見直し、設計者などへの環境法規制に関する教育の強化を進めています。

表彰制度

デンソーテックグループでは、優れた活動を表彰する社内制度があり、社長表彰・本部長表彰・CSR 賞においては、優れた成果をあげた環境保全活動がその対象となります。

2015 年度からは「デンソーテックグループ環境貢献賞」を新たに設けました。この賞は、環境に配慮した製品や技術、日頃から環境に関する地道な取り組みや効果的な活動を行っている拠点・事業所の中から、「グリーンサイト・オフィス」「部門の本業」「製品・サービスを通じた貢献」「社会貢献、企業イメージ向上」の 4 カテゴリーで、それぞれ優秀な取り組みを表彰するものです。

2018 年度は「マキリン山の修復と野生生物保護センターへの協力」など大賞 2 件、優秀賞 3 件、特別賞 2 件を表彰し、そのうち 4 つの事例について、優秀事例発表会で発表を行いました。



表彰式後の記念撮影。左から 2 人目は小川専務(地球環境委員長)

環境リスク対応

環境汚染や生態系破壊のリスクを最小化するため、法規制を超える厳しい自主管理値を設けるなどの取り組みを継続しています。

環境規制の順守状況

デンソーテン本社および国内の全生産拠点で、水質・大気・騒音・振動に関する法規制値より厳しい自主基準値を設けて、定期的な監視を行っています。

2018年度は、下表のような不具合が発生しましたが、いずれも早急に適切な是正処置を行いました。

拠 点	不具合内容
デンソーテン 中津川製作所	騒音規制法に基づく自主基準値(夜間)超過
電装天電子(無錫)有限公司 (TNWX)	汚水タンクの処理能力不足による排水の自主基準値超過 (窒素酸化物・燐)

環境関連の緊急事態・苦情・事故・訴訟

2018年度は、環境関連の緊急事態の発生および苦情・事故・訴訟・罰金の科料はありませんでした。

土壌・地下水汚染対策（日本）

デンソーテングループでは「土壌等管理細則」に基づき、土壌・地下水を計画的に調査し、汚染が発見された場合は、所定の報告と措置を実施しています。

過去に土壌汚染を認識した上で購入した用地については、神戸市により、健康被害がない「形質変更時届出区域」として登録されており、継続的に地下水のモニタリングを実施しています。

また、2014年7月と2018年3月に新たに基準値を超える土壌汚染が確認された土地については、地下水汚染が検出されなかったため、盛土およびアスファルト舗装を行い、健康被害が発生しないよう対策を完了しています。

これら汚染が確認された土地については、今後も行政と相談しながら定期的にモニタリングを行い、結果を開示していきます。

* 2019年3月31日現在

事業所名	所在地	対策状況	観測井戸最大値(mg/l)*		
			物質名	測定値	規制値(mg/l)
本社拠点	兵庫県神戸市	モニタリング実施中	砒素	0.065	0.01

アスベスト・PCBの状況（日本）

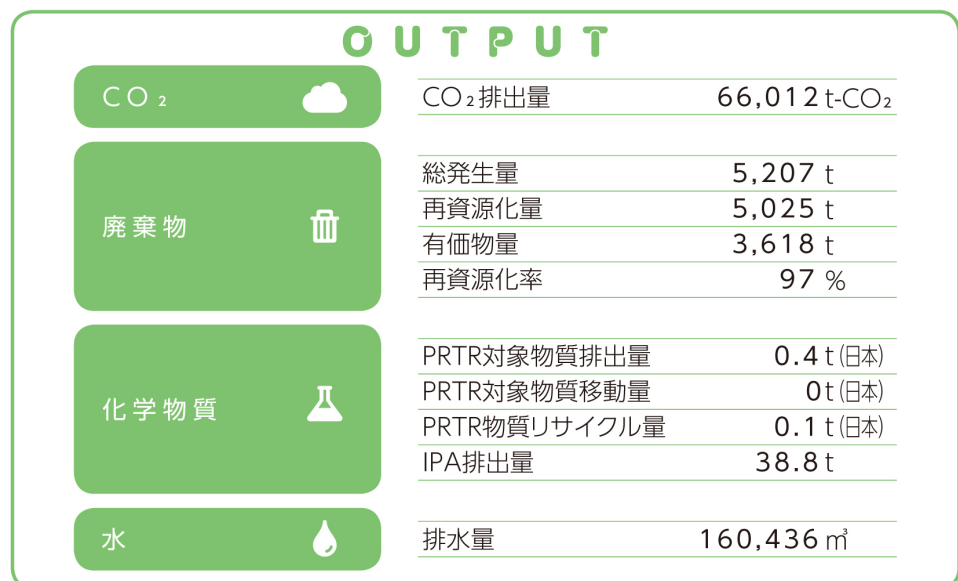
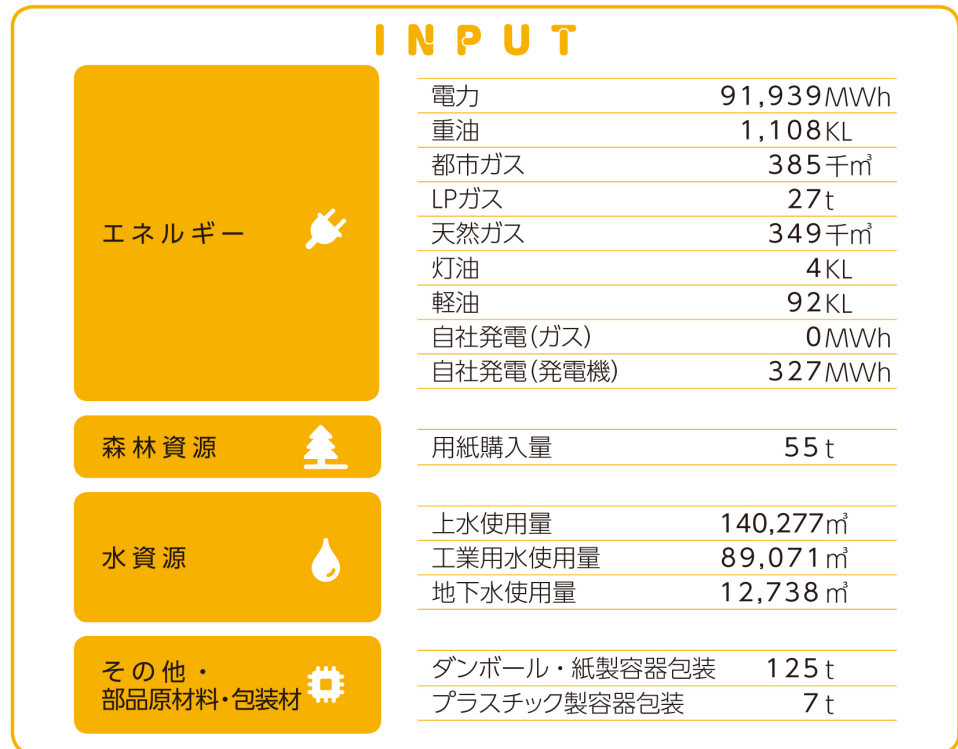
当社所有の建物で、スレートの一部にアスベストの使用が確認されています。これらは通常、飛散の恐れはありませんが、今後、建物の解体工事などの機会に、アスベスト非含有製品に切替えを進めます。

また、PCBについてはデンソーテン本社の使用済トランスなどへの含有が確認されていますが、これらは法律に従って厳重に保管・管理しています。

データ編

事業活動と環境側面

デンソーテングループの製品および事業活動は、さまざまな形で環境に負荷を与えています。私たちは、今後もグループ一体となった環境経営を進め、あらゆる段階で環境負荷低減を図ります。



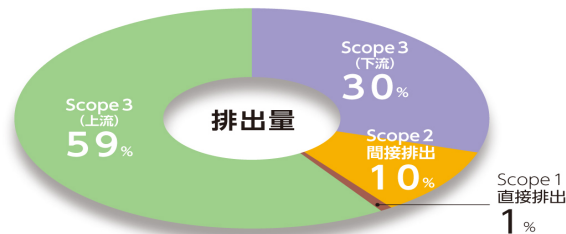
データ編

サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量

* GHG プロトコル:
温室効果ガス
(Greenhouse Gas)
排出量の算定と報告の
国際的なガイドライン

デンソーテックグループでは、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量を、GHG プロトコル*の基準に準拠して算出しています。Scope3 については、15 カテゴリ中当社に関連する 9 カテゴリすべてについて算出しています。

2018 年度のサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量は、572,299 t となりました。



データ編**環境会計**

デンソーテングループは、環境保全活動の効率を評価するため、費用と経済効果を把握する環境会計を実施しています。経済効果については、環境省「環境会計ガイドライン」に定められた実質的効果に加え、推定的効果(みなし効果、リスク回避効果)についても独自に算出基準を定めて算出しています。

2018年度 環境会計の結果（グループ連結）

環境コスト	前年度より76百万円増加し、749百万円となりました。グリーン製品開発コストが56百万円増加したほか、資源循環および管理活動に関わる人件費が増加したことが主な要因です。
環境効果	前年度より2,847百万円増加し、5,554百万円となりました。グリーン製品売上高が大幅に増加したことによるものです。

2018年度 環境会計（グループ連結）

単位:百万円

分類	内容		費用	前年度比	効果の分類	効果	前年度比
事業 エリア内	公害防止	大気・水質汚染防止等	61	±0	推定的効果	16	±0
	地球環境 保全	地球温暖化対策等	75	-4	実質的効果	17	-2
	資源循環	廃棄物処理費用等	142	+14	実質的効果	82	-2
上下流	グリーン調達／物流等		57	±0	実質的効果	0	±0
管理活動	環境教育、内部監査等		229	+11	推定的効果	9	+3
研究開発	グリーン製品の設計開発		182	+56	推定的効果	5,428	+2,845
社会活動	環境貢献活動等		0	±0	推定的効果	0	±0
環境損傷	土壌汚染の修復等		0	±0	推定的効果	0	±0
合計			749	+76		5,554	+2,847

※百万円未満は切り捨てて表示しています。このため、各分類別の合計値と合計欄の数値は必ずしも一致していません

データ編

サイトデータ

国内

拠点名		CO ₂ 排出量	エネルギー 使用量 (電力換算)	廃棄物 発生量	用紙 購入量	化学物質 取扱量* ¹	用水 使用量
		(t-CO ₂)	(∕MWh)	(t)	(t)	(kg)	(m ³)
デンソーテン本社		7,045.2	12,335.4	345.7	21.3	544	71,511
製 造	中津川製作所	9,879.7	16,093.4	435.9	2.3	9,291	35,283
	小山製作所	3,555.1	6,234.9	307.4	2.5	6,288.1	12,982
	デンソーテンテクノセブタ	928.4	1,628.8	160.1	0.5	30	1,861
販売	デンソーテン販売* ²	157.5	275.8	10.5	1.9	-	569

*1 対象物質:トルエン、キシレン、銀、鉛、イソプロピルアルコール(IPA)、メチルナフタレン【大気への排出量】

*2 現・株式会社デンソーソリューションズ

※ その他の関係会社は、デンソーテン本社および製作所と一体となった活動を行っているため、環境負荷データは各拠点のデータに含まれています

海外

拠点名		CO ₂ 排出量	エネルギー 使用量 (電力換算)	廃棄物 発生量	用紙 購入量	化学物質 取扱量* ³	用水 使用量
		(t-CO ₂)	(∕MWh)	(t)	(t)	(kg)	(m ³)
製 造	TNMX	9,916.9	13,566.1	1,003.1	2.4	12,667	8,941
	TNPH	7,114.7	12,070.8	521.2	2.6	6,770	25,824
	TNTH	3,494.4	6,492.4	324.3	1.3	970	14,081
	TNWX	10,804.1	11,084.3	208.6	3.8	2,731	34,855
	FTESA	1,898.3	6,779.8	688.3	1.9	47	4,157
	TNIA	2,583.6	3,539.1	128	0.7	4,956	3,589
	TNMI	3,444.3	2,600.6	211.1	2.4	275	4,560
販 売 そ の 他	TNAM	1,193.5	1,856.5	221.8	2.3	-	7,233
	TNEU	285.3	486.8	9.6	1.1	-	3,821
	TNSP	20.4	40.7	1.0	0.3	-	-
	TNSG	102.8	86.8	4.9	0.5	-	399
	TNAU	72	70.6	1.2	0.5	-	877
	TNTT	1,741.4	1,707.3	10.4	1.9	-	11,512
	TNRT	4.5	8.4	0.04	0.01	-	220
TNKR	9,916.9	13,566.1	1,003.1	2.4	12,667	8,941	

*3 対象物質:トルエン、キシレン、銀、鉛、イソプロピルアルコール(IPA)【大気への排出量】

※ 海外拠点のCO₂排出係数には、国別電力排出係数(日本電機工業会)を用いています

※ 海外拠点の正式名称はP.61に記載